

医師臨床研修の ご案内

交通案内



JRでお越しの場合

JR高山線『高山駅』より徒歩10分



お車でお越しの場合

中部縦貫自動車道『高山I.C』より10分



高速バスでお越しの場合

高山濃飛バスセンターより徒歩10分

医師臨床研修のご案内

(令和3年度版)

発行：高山赤十字病院

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3-11

URL: <http://www.takayama.jrc.or.jp/>

E-mail: dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp

TEL: 0577-32-1111 (代)

FAX: 0577-34-4155

編集責任

臨床研修管理委員会



日本赤十字社 高山赤十字病院
Japanese Red Cross Society





INDEX

病院長からのメッセージ	04
指導医からのメッセージ	05
先輩研修医からのメッセージ	06
臨床研修プログラム	07
研修医ローテート	09
救急外来・救命救急センター	13
臨床研修Q&A	16
研修医の待遇	17
病院見学実習	18

臨床研修プログラムの 理念・基本方針

◆ 理 念

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につける

◆ 基本方針

・プライマリ・ケア

さまざまな疾患を有する患者さんが受診していることより、common diseaseのプライマリ・ケアを幅広く経験し、医師としての基礎を築く。

・地域医療

地域の基幹病院として初期(1次)から3次までの救急医療を担当しており、住民が安心して生活できるよう、地域の病院、診療所、介護施設などと連携した医療を実践する。

・指導体制

長年の臨床研修の経験をもとに、診療間の垣根がなく、熱意ある指導医の下、実践を重視した研修を行い、2年間の初期臨床研修終了時にはどの医療現場にでも対応できる医師を育てる。



病院長からの メッセージ

高山赤十字病院は全国に91ある赤十字病院の中のひとつで、その創立(正確には飛騨三郡立大野郡病院より日本赤十字社に移管)は大正11年(1922年)であり、もうすぐ創立100周年を迎える歴史ある病院です。それだけではなく、当時より飛騨地域の中核病院として急性期医療を担い、地域住民から大きな信頼と期待を寄せられてきました。当院は昭和56年に地域医療の充実のため臨床研修病院に指定され、当時は主に自治医科大学卒業の医師を臨床研修に受け入れてきましたが、平成16年から始まった新臨床研修制度のもとでは全国の医学部卒業生からの応募があります。

当院のミッションは急性期医療と高度医療を安全に行うことです。そのため救命救急センターを併設し、24時間体制で地域住民の生命を守っています。さらに地域包括ケアの理念のもと、急性期患者を在宅へソフトランディングできるように回復期リハビリ病棟、

老人保健施設も併設し、超急性期から慢性疾患に至るまで、そして介護・福祉まで幅広い医療を実践しており、発症時からの一貫したプライマリケアを体験できます。

救急医療では3次救急までを担い、救命救急センターでは16,000人/年、救急車搬送台数は3,000件/年で、様々な症例に対応しています。研修医は指導医のもとでセンターの副当直として、非常に多くの救急疾患を学ぶことができます。一方、病棟においては経験豊富な熱意ある指導医によるきめ細かい指導に心掛けており、今後も研修環境の改善、指導医の充実など研修の質が上がるように努めていきます。

当院はいわゆるへき地の病院ですが、研修医の出身は北海道から沖縄まで広がっており、これまでに100名近くの研修医を受け入れています。多くの研修医は地域医療に熱心であり、2年間の初期研修終了時には十分な経験と医師としての自信を身につけて、ど

の病院に行っても即戦力として活躍できるようになります。是非熱意ある研修医が当院に来てくれることを願っています。

飛騨高山の町並みとその周辺(世界遺産の白川郷やノーベル物理学賞を生んだカミオカンデ)は今や世界的に有名な観光地となりました。多くの外国からの観光客が訪れています。そのため外国の方が観光中にけがや病気で受診することも珍しくはありません。そのため当院では「外国人患者対応マニュアル」を出版し、診療に役立たせています。

周囲には温泉もあり、豊かな四季など地域の魅力に触れながら医師としての第一歩を飛騨高山で踏み出してみませんか。大いに歓迎致します。

高山赤十字病院
病院長 清島 満

指導医からの メッセージ

◆地域に根差した救急医療を・・・



バングラデシュ南部避難民支援

高山は、岐阜県山間部北アルプスに囲まれた飛騨地区の中心都市です。飛騨地域の人口は約16万人ですが、年間450万人の観光客が訪れる観光都市のひとつです。東京都の約2倍の広大な面積を有し、当院はこの中の唯一の救命救急センターを有する3次医療機関であるため、この地域の重症外傷を含めさまざまな症例が当院に集まります。

私自身は外科医であるとともに、救急医学会指導医として約5年間名古屋第二赤十字病院で救急医療、研修医教育、国際医療救援を行ってきました。都会では患者さんの「たらい回し」というのが問題になりますが、この地域では

当病院が「最後の砦」として全ての救急患者を受け入れています。もちろん全疾患を当病院で完結できるわけではあり

ませんので、岐阜大学高度救命救急センターと連携を取ってドクターヘリを活用し、高度先進医療にも対応しています。「都会の救急医療」とは違った、救急隊との顔の見える関係と患者さんへの誠意ある医療の提供を常に心掛けています。

赤十字病院は地域に根差した救急医療、災害救護を行うという点で、他の一般病院と異なります。私自身は、阪神大震災の救護活動以来、スーダン、アフガニスタン、パキスタンなどでの国際医療救援を長年行っています。研修医の先生たちには、国内災害救護に参加していただくと医の原点を見つめる良い機会となります。さらに、

興味のある方には実務経験を積んでいただき国際救援にもぜひ羽ばたいていただきたいと思います。当院は、内科・外科を含め専門科に細分化されていない分、救急医療を通して広い研修が可能です。

平成16年度から研修医が自主的に毎週朝、体験した症例をもとに勉強会を開催しています。プレゼンテーションをすることで勉強し、お互いに知識経験を共有するとともに、上級医が教えていく「屋根瓦方式」を継続しています。我々指導医も勉強会に参加することによりアドバイスとフィードバックを図っています。また、「臨床研修セミナー in 高山」を年に数回開催しています。今年度も予定していますので、ぜひ参加してみてください。

副院長
臨床研修管理委員会委員長
白子 隆志



先輩研修医からの メッセージ

高山赤十字病院は、広さとしては日本でも最大級の医療圏である飛騨地域において唯一の3次救急病院です。

当院における研修の最大の特徴は、研修医が主体的に医療に参加し、研修の充実と、医療への貢献とを両立させられる点にあると思います。研修医が実際に現場で診療を行う機会が非常に多く、入院症例を主治医として担当し、救急外来では幅広い症例を経験でき、手術では執刀医を経験できます。医師、コメディカルからの指導も非常に手厚いです。

救急外来では医療圏が広く、かつ症例が分散しないため、幅広い疾患を経験できます。当院は診断や初期



1年目 オリエンテーションの様子

対応に研修医が関与できる機会が非常に多く、実践力が身に付きます。自然に恵まれているため、山岳外傷、動物外傷、ツーリング外傷などにもしばしば遭遇し、また観光地のため外国人診療の機会が多いことも特徴的です。

病棟管理では1年次から内科系・外科系ともに複数の科で主治医を経験できます。自身で検査、治療を検討して指導医とともに方針を決定するため、主体的に研修ができます。現場で悩みながら検査や治療を選択



2年目 コロラド大学病院研修

することで、実用的な知識、技術の向上が図れます。指導医の確かなバックアップが、研修医の積極的な介入を可能にしています。

院外での研修の機会も多く、希望者は県外の提携病院や、高山市の姉妹都市であるデンバーのコロラド大学病院で研修することも可能です。また、研修セミナーとして講師の先生をお招きし、最先端の医療についても学習することができます。研修医対象の、自身の診療へのフィードバック等の勉強会も、毎週開催されています。日本赤十字社の一員として、災害時には救護班として活動し、そのための訓練も行われます。

研修以外でも、飛騨の美味しい料理や酒、温泉も堪能でき、アウトドア活動、ウィンタースポーツも楽しめます。非常に暖かい人柄の地域の皆さんと触れ合えます。休暇には国内外へ旅行も可能で、余暇への配慮もなされています。

充実した研修医としての2年間を送れます。ぜひ一度、見学にお越し下さい。

研修医 R.T.



2年目 県懇話会での発表

臨床研修 プログラム

◆特徴

- 当院は飛騨地域における中核病院として日常の医療活動はいうまでもなく、地域の1次より3次救急医療までを担っています。そのため超急性期から慢性疾患、終末期医療、介護・福祉まで含めた幅広いプライマリ・ケアを修得できます。
- 研修医は指導医とペアで患者を担当し、指導医は親切的な指導を心がけています。自治医大卒業医師の臨床研修を長く行ってきたことから、2年間の研修後には診療所において独り立ちできるレベルの医師を育てます。
- 内科研修は、様々な症例の診断・治療を25週、指導医の下で主治医として繰り返し経験します。急性期から慢性期、終末期、在宅医療と一貫した研修となっています。
- 救急科研修では、脳外科、整形外科、麻酔科にて、救急対応を研修します。また、救急車同乗研修も行いますが、これはプレホスピタルの現場がわかると研修医から好評です。
- 年間の救急車搬送台数は約3,000件で、研修医は日当直の副直として救急患者に対応します。副直時では各診療科の指導医の下で、メジャーな科からマイナーな科まで質の高い幅広いプライマリ・ケア研修を行います。



- 地域医療研修(4週)では、へき地の病院・診療所などで研修を行い、地域に根ざした医療を修得します。
- BLS、ACLS、JPTEC、ICLSなどの資格取得に対して積極的な支援をしています。また、年間を通じて救急に関する勉強会が非常に多く開催され、学習機会が多いのが特徴の一つです。
- 地域完結型の医療を提供する病院として、臨床研修の基本的理念であるcommon diseaseを幅広く経験できる研修内容となっています。
- 研修医のための勉強会の他、院内の各部署にて盛んに勉強会が開催されていて気軽に参加できます。毎週開催する研修医による自主勉強会では、通常遭遇する病態・疾患について自分で題材を探し、勉強したことをプレゼンし、他の研修医、指導医と活発な議論を行っています。

◆1年目



◆2年目



内科: 25週	主治医として患者を受持ち、総合的な研修を行う
外科: 12週	1年目に8週、2年目に4週
小児科: 4週	1年目の後半に研修する
救急科: 12週	脳神経外科(脳卒中)・整形外科・麻酔科にて救急対応を研修する(各4週)
産婦人科: 4週	
精神科: 4週	精神科医療の現場を経験する…特定医療法人生仁会須田病院
地域医療: 4週	・過疎地の病院の現状を経験する(2週)…国保飛騨市民病院 ・診療所の医療を経験し、病診連携について理解する(2週) …国保診療所(朝日・清見・久々野・荘川・白川・高根)・丹生川診療所・高桑内科クリニック 河野ファミリークリニック ・地域の救急医療の現場を研修する(1年目に救急車同乗)
一般外来研修: 5週	内科・外科・小児科・地域医療研修にて研修を行う(在宅研修含む)
自由選択科: 37週	・全診療科…高山赤十字病院・名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院・名古屋第一赤十字病院 ・循環器内科…久美愛厚生病院・岐阜ハートセンター ・精神科…特定医療法人生仁会須田病院 ・地域医療…国保飛騨市民病院・診療所(朝日・清見・久々野・荘川・白川・高根) 丹生川診療所・高桑内科クリニック 河野ファミリークリニック ・地域保健…飛騨保健所(1週間)・老人保健施設 はなさと ※2年間を通じて献血研修を行う…岐阜県赤十字血液センター ※海外研修可: コロラド大学病院(デンバー2週) ※自由選択科としての院外研修は原則6週以内

研修医ローテーション

◆ 1 年目

約2週間のオリエンテーション後、内科、救急科、外科に分かれてローテーションを開始します。
救急科所属期間には整形外科・脳神経外科・麻酔科(各4週)に所属し、主に救急対応を研修します。
1年目の後半に小児科の研修を行います。

内 科 (循環器内科含む)	外 科	小児科	救急科		
			脳神経外科	整形外科	麻酔科

◆ 2 年目

2年目は外科・産婦人科・精神科・地域医療が各4週、自由選択科が37週の研修となります。
各自の進路、希望に合わせてローテーションを組みます。ローテーションは、2年目の後半で変更が可能です。
希望の方は海外(2週)、名古屋第二赤十字病院、鳥取赤十字病院、名古屋第一赤十字病院などでも研修できます。

外 科	産婦人科	精神科	地域医療	選択科
-----	------	-----	------	-----



研修医オリエンテーション



救急勉強会

当院研修医の出身大学						
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
岐 阜 大 学 筑 波 大 学 自 治 医 科	岐 阜 大 学 山 形 大 学 藤田保健衛生大学 自 治 医 科	岐 阜 大 学 愛知医科大学 福島県立医科大学 久 留 米 大 学	岐 阜 大 学 順 天 堂 大 学 東 海 大 学 自 治 医 科	岐 阜 大 学 福 井 大 学 鳥 取 大 学 藤田保健衛生大学	岐 阜 大 学 鳥 取 大 学 順 天 堂 大 学 自 治 医 科	岐 阜 大 学 藤田医科大学 自治医科大学
計7名	計7名	計7名	計7名	計7名	計4名	計5名

◆ 内科研修(25週)

内科での研修期間中は担当患者さんを入院から退院まで主治医として受け持ちます。プレッシャーもありますが、様々な方々に助けられどうにか終了。何かしてくれるのを待つより、自分に何が出来るのか考えます。困ったときは気軽に相談すれば、スタッフの皆さんが快く力を貸してくれます。
研修医は週1回、内科全分野の医師の前で症例提示を行い(研修医症例カンファレンス)、適宜指導を受けます。

研修医 H.N.



主治医として病棟回診



カンファレンス中



病室にて受持ち患者さんと

◆ 小児科研修(4週)

朝はNICUの赤ちゃんの採血と担当する患者さんの診察。赤ちゃんって本当にかわいいです。それが終わると小児科病棟の担当患者さんの回診と小児科病棟に入院している子供たちの採血。小児科外来の子どもたちのルート確保や採血も研修医の担当ですが、ベテラン看護師さんたちがうまくリードしてくれるので、安心してできます。この日は午後緊急帝王切開が入りました。赤ちゃんが元気に泣いてくれるとほっとします。手術が終われば小児科外来に時間外で受診する子どもの診察も担当。common diseaseが多いです。困ったら上級医に相談です。

研修医 K.I.



未熟児室にて



研修医ローテーション

◆ 外科（12週）

外科研修では指導医直属の副主治医として診療に当たります。実際に第一助手、第二助手として手術に加わり、low risk症例であれば指導医の指導の下、執刀医として執刀する機会もあるでしょう。救急車対応が多い点も外科研修の特徴です。



◆ 救急科研修（12週）

整形外科、脳神経外科、麻酔科に各4週所属し、救急対応を中心とする研修を行います。

地域の3次救急病院のため、救急車搬送数は多く多様な救急症例を経験できます。



◆ 救急車同乗研修

救急車に同乗し、プレホスピタルの現場について消防署で研修します。



◆ スピリチュアル研修

研修開始から約半年が経過した時期に、1泊2日のスピリチュアル研修を実施します。

◆ 地域医療研修（4週）

過疎地の病院・へき地診療所などで地域医療を経験し、病院連携について学びます。



思い出に残る診療所研修

久々野・朝日・高根診療所をまわりました。限られた設備・検査のなかで判断し総合病院へ紹介する難しさを感じるとともに、紹介元の立場から当院を見直す良い機会となりました。医師となり多忙な診療業務のなかで忘れがちになっていた「患者背景を考慮する」という基本事項についても、改めて意識すべきであると反省する機会にもなりました。

研修医 K.S.

丹生川診療所の訪問診療では寝たきりの患者さんや、若年の方から高齢の方まで様々でしたが、皆、先生をはじめ医療スタッフの到着を楽しみにしていました。

死を前にして、死にたいという患者さんにも静かに寄り添い、無理に励ましたり遠ざけたりすることもない。静かに、そして温かく寄り添う姿勢が嬉しい時もある。丹生川診療所では、在宅での看取り、緩和ケアの精神も学ばせていただきました。

研修医 M.Y.



◆ 選択科研修（37週）

当院の全診療科の他、名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院・名古屋第一赤十字病院でも研修が可能です。また、高山市の研修医派遣交流事業としてアメリカ・デンバー市のコロラド大学病院での2週間の研修も可能です。（ただし、院内選考あり）

名古屋第二赤十字病院

消化器外科志望の私にとって、外科専門医になるために必要な心臓外科、大血管外科、呼吸器外科の症例を経験できた名古屋第二赤十字病院での研修は非常に有意義でした。多くの出会いもあり、いつもと違う環境での研修はとてもよい刺激となります。海外研修を含めいろいろな環境で学ぶことのできる研修は高山日赤の魅力のひとつです。

研修医 S.K.

救急外来・救命救急センター



当院救命救急センターは、1992年12月に飛騨地域唯一の第3次救急施設として開設されました。対象は飛騨地域16万人であり、第1次から第3次までの救急症例に対して24時間全受け入れ体制で対応しています。

令和元年度救急外来受診者は13,314名、救急車搬送は2,900台。疾病の中では脳血管障害と急性心筋梗塞症例が圧倒的に多数を占めています。

重症救急症例でかつ特殊治療を要する症例は、ヘリコプターまたは救急車で高次救急機関へと搬送を行っています。また、災害時多数傷病者搬送時や重症症例等で救急隊の要請があった場合、医師・看護師が現場へ駆けつけ、現場活動後搬送することも行っています。

◆ BLS・ACLS・JPTEC・ICLS・・・

臨床の現場で出会う問題のすべてをEBMや教科書に書いてあることで解決できるわけではなく、経験から得るものや上級医から指導を受けて身につける知識なども重要です。当院では研修医も指導医の下、主治医として多くの経験を積むOn the Job Training(現場での研修)を早期から行っています。また、Off the Job Training(仕事と離れて行う研修)にも力を入れています。当地域を対象としたICLSコースやJPTEC(病院前外傷診療)コース、院内のJATEC(外傷初期診療)ミニコース、ISLS(脳卒中初期診療)ミニコース、災害時のトリアージといったシミュレーション、Nutrition Support Team(NST)やRespiratory Support Team(RST)などの活動が盛んに行わ

れ、研修医の参加を歓迎し研修医やスタッフの教育に力を入れています。

今後はDifficult Airway Management(DAM)ミニコースやFundamental Critical Care Support(FCCS)ミニコースの開催も予定されています。



◆ 救急外来

1年目研修医は着任後2ヶ月間、2年目研修医と共に救急外来診療(副々直)を行い、6月より月平均4回程度、日当直の副直として救急外来での診療に従事します。

ウォークイン受診の患者さんに対しては原則副直研修医がファーストタッチを行い、救急車搬送の患者さんは内科系・外科系指導医と共同で診察することになります。いずれの場合も指導医に確実にコンサルトできる環境が整っており、研修医が独りで判断をしなければいけない場面はありません。指導医の指導の下、研修医がリーダーとして救急診療に当たる機会が多いのも特徴です。科を問わず全科にまたがる初期診療を2年間継続して行うことで、幅広い領域にわたるプライマリーケア力が身につくこととなるでしょう。



救急外来・副直

当院では、一般的にみられる市中疾患から高度な医療を要する重症な疾患まで幅広い疾患を経験することができます。時には山間部の町村から1時間以上もかけて救急搬送されることもあり、僻地医療を担う当院の責任の重さを感じます。

4月、1年目研修医は副々直医として2年目研修医のアドバイスを受けながら見学・診療を行います。6月からはいよいよ副直医として活躍します。初めは緊張と不安でいっぱいですが、いつでも上級医にコンサルトできるので

心配はいりません。しかし、まずは自分で考えて問診・身体所見をとり、鑑別診断を挙げ、必要な検査を行っていくことが重要だと思います。その後で上級医が不足している部分の補足や、誤った考えなどを修正して下さるので、とても勉強になります。上級医とマンツーマンで当直を行うため、各科の医師も研修医のことをよく知ってくださり、研修医が少人数である当院の利点であると思います。

正直なところ、眠れない夜や翌日の業務がしんどいこともありますが、毎

回新しい知識を得ることができ、励みにもなります。いつの間にか重症な患者さんを見逃さない勘が養われてきます。

また自分が当直で経験した症例を提示・検討する研修医勉強会も行われています。勉強会で知った症例に自分も遭遇し、ほっとしたこともあります。救急外来は、様々な疾患を経験し、初期対応を身に付ける貴重な場だと思います。

研修医 A.K.

研修医のための 勉強会



臨床研修セミナーin高山

◆ 研修医勉強会

臨床研修オリエンテーション(4月)

研修医救急勉強会(4~5月)

※各科指導医による勉強会

毎週火曜朝 研修医勉強会

毎週水曜昼 救急外来勉強会

臨床研修セミナーin高山(年5回程度)

※院外講師によるセミナー



リフレッシュ研修

◆ 全職員研修(1年目研修)

新採用者研修(4月)

リフレッシュ研修(8月頃)

交流会(1月頃)

図書室・地域連携研究室(図書閲覧室)

図書の貸出、閲覧が可能です。また、パソコンを合計8台設置しており、インターネットも利用できます。

病院にない文献は、無料で取寄せることができます。

利用できるデータベース: 医中誌WEB、Medline with full Text、Dyna Med、Pub Med、コクランライブラリー、他



図書室



地域連携研究室(図書閲覧室)

臨床研修 Q & A

Q: 各診療科では十分な指導が受けられますか?

指導医についてマンツーマン体制の指導を受けます。熱意のある研修医には、指導医の下で、多くのチャンスが与えられます。診療科同士の垣根が低く、他科の医師にも気軽にコンサルトしやすい雰囲気です。

Q: 日常における研修が雑用に追われるということはありませんか?

主治医、副主治医として診療を行い、一部の大規模病院と比較して診療補助的な雑用は少なく、医師としての研修業務に集中できます。地方病院は、都会に比べてコメディカルスタッフが優秀なのが特徴です。

Q: 一日の勤務時間はどのようなものですか? 休日、休暇についても教えてください。

平日の就業時間は、朝8時半から17時ですが、実際には朝早目に来て、就業後も病院に残る研修医が多いようです。担当患者の急変時、緊急処置時などには勤務時間外であっても呼び出しがあります。毎週火曜朝には研修医の自主勉強会を開催しています。受持患者がいる場合は土・日も回診をしますが、その後はフリーです。原則チーム医療なので、交代で完全オフも与えられます。有給休暇のほかにも実質1週間の夏休み取得も可能です。

Q: 職場の人間関係、雰囲気はどうですか?

指導医はもちろん、スタッフは研修医でも一人のドクターとして対応します。そして、患者さんからも研修医に対して非常に温かい心遣いがあります。各科・職種を超えた宴会やスポーツ大会も頻繁に開催されており、楽しい雰囲気です。

Q: 研修医の出身大学は?

全国各地から国立私立を問わず集まっています。研修医の多くが一部の大学出身者で占められる病院と異なり、バックグラウンドの違う研修医たちと研修を行うことで得るものは多いでしょう。

Q: 住環境はどうなっていますか?

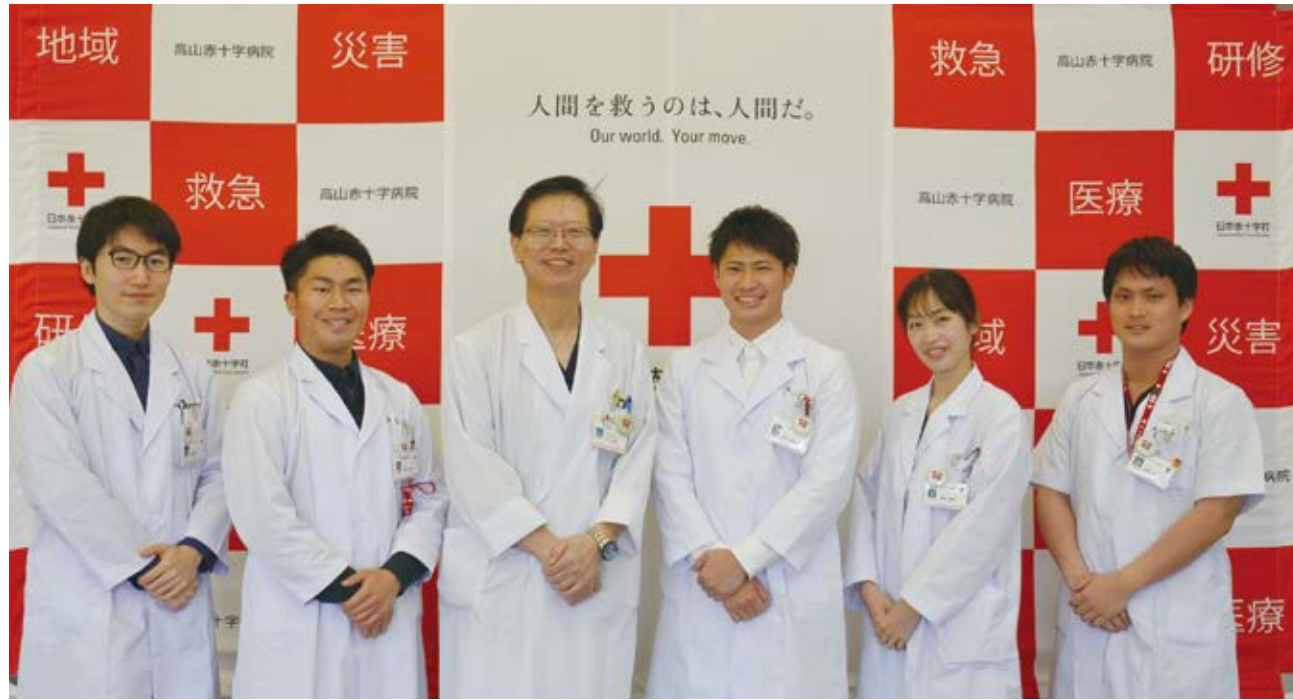
研修医の住居は病院の目の前にあります(徒歩1分程度)。民間の賃貸物件を借りることも可能です。ともに家賃補助があります。店舗等は市街地にコンパクトにまとまっており、生活に不便はありません。また、病院から観光地である「古い街並み」へ徒歩10分程度です。

Q: オフの過ごし方は?

飛騨高山は日本有数の観光地です。休日は観光スポットを散策し、街並みを眺めながら過ごすのもいいでしょう。飛騨牛、高山ラーメン、蕎麦、新鮮な野菜、漬物、富山湾からの新鮮な魚介類、そして地酒にと豊かな食文化を誇る高山はグルメ派のあなたもきっと満足。少し足を延ばせば世界文化遺産である白川郷や五箇山、上高地、松本、金沢、富山もすぐそこです。また高山は乗鞍岳、焼岳、槍ヶ岳、穂高連峰、白山と名山に囲まれた自然環境豊かな土地柄です。車で1時間も走れば下呂温泉、飛騨小坂温泉郷、奥飛騨温泉郷といった有数の名湯秘湯があり、オフは登山にドライブに温泉巡りに繰り出す研修医も多いようです。車で1時間以内の範囲に大型スキー場も複数あり、冬はウィンタースポーツに燃える方もいます。自然と文化、食に恵まれた高山での2年の生活は、オフでも大きな思い出になるはずですよ。

研修医の
待遇

研修医の定員	8名程度
待遇	身分：研修医（正職員に準ずる） 給与：（医師確保手当を含む・税込み） 1年目 450,000円／月 2年目 500,000円／月 日当直手当 30,000円／回（副直） その他手当 通勤手当・時間外手当・寒冷地手当 等 賞与：（令和元年度実績） 1年目 759,000円 2年目 1,118,000円 有給休暇：年間21日以内 夏季休暇あり 福利厚生：健康保険・厚生年金保険・雇用保険・労災保険 住宅：医師住宅家賃補助あり



病院見学
実習

医学生による病院見学実習などの卒前研修を、随時受け入れています。
ホームページをご覧のうえ、ぜひお申込下さい。

- ◆日本一広い市の基幹病院！
- ◆豊富な救急症例！
- ◆研修医育成に実績あり！
- ◆地域医療の最前線を経験できる！
- ◆懇意な指導対応！
- ◆日本有数の国際観光地・飛騨高山！

来たれ高山日赤に！

申込方法

実習申込書をホームページよりダウンロードし、FAXまたは電子メールにて下記アドレスにお申し込みください。実習決定後、大学学生課等にて「実習依頼書」を発行してもらい、病院長宛てに送付してください。

持ち物

白衣・名札（大学で使用しているもの）・聴診器・筆記用具など、必要と思われるもの。

宿泊費・交通費補助

実習に伴う交通費と宿泊費の補助があります。宿泊費補助については宿泊の事実がわかる書類またはデータ等の確認を必要とします。詳細は下記へお問い合わせください。

実習内容

研修医、指導医について実習を行います。
実習時間は原則8:30～17:00（1日コースは8:30～16:00）です。
救急外来見学は17:00～20:00です。
実習日数については、相談に応じます。適宜指導医、研修医との懇親会を企画します。

申込先・お問い合わせ

〒506-8550岐阜県高山市天満町3丁目11番地 高山赤十字病院 教育研修課
TEL: 0577-32-1111（内線3362） FAX: 0577-32-6802
E-mail : dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp